

Relief

リリーフ

2012
July

vol.8



連続講座「[いのち]を考える」：講師の言葉に耳を傾ける受講生（紹介記事P 2、3）

CONTENTS

連続講座 「いのち」を考える

救急フェア 身につけよう救命処置!!

公募助成 公募助成先の活動紹介
平成25年度公募助成(活動・研究)の募集
「第3回東日本大震災に関する活動」助成先一覧
「東日本大震災に関する活動助成」報告会の開催

TOPICS 公募助成(活動助成)先の活動予定
主催セミナー等のお知らせ
編集後記



公益財団法人

JR-West Relief Foundation

JR西日本あんしん社会財団

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 TEL: 06-6375-3202 FAX: 06-6375-3229
E-mail: info@jrw-relief-f.or.jp URL: <http://www.jrw-relief-f.or.jp/>

「いのち」を考える



理事長
佐々木 隆之

初めての連続講座でしたが、毎回多数の皆様を受講していただきありがとうございました。昨年の東日本大震災や台風12号の被災者の方々のサポートはこれからは正念場ですが、本講座でも、東日本大震災の遺児の支援活動が行われているあしなが育英会様をはじめ、多くの講師の方から被災地でのご経験を踏まえた貴重なお話をいただきました。また、がんやALS患者のお立場から、私たち一人ひとりの生き方を見つめ直す

きっかけとなるお話もございました。今回の連続講座にお越しいただいた複数の講師の方々から、「多岐にわたる分野、立場からのお話は大変興味深い。まさに今の時代に合った講座であり、是非今後も続けてほしい」との言葉をいただき、主催者として大変有難く感じるとともに、私ども財団の役割を重く受け止めている次第です。10月からは第2回講座を開講いたします。是非ともご参加下さい。

①5月9日(水)

柏木 哲夫

金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長

「死にざまこそ人生～ 「ありがとう」と言って逝くための10のヒント」

ホスピスで約2,500名の患者様を看取り、人は生きてきたように死んでいく、これまでの生き方が末期に濃縮する形で現われることを知りました。死を視野に入れて生きていくことこそが大切なのです。

②5月16日(水)

窪寺 俊之

聖学院大学大学院教授、元関西学院大学神学部教授

「スピリチュアリティ考～癒しをもとめて」

いのちの危機の瞬間、人はいのちの本質を垣間みて、自分の責任で自分のいのちを生き始めます。この世の生に新しい意味を見出すことができれば、危機の中で生きる意味や使命を見つける助けになります。

③5月23日(水)

鎌田 東二

京都大学こころの未来研究センター教授

「むすびと無常：日本人のいのち観 ～神道と仏教と神仏習合文化を手がかりに」

神道的いのち観は「むすび」、仏教的いのち観は「無常」として表されますが、古くからの日本人のいのち観では、「針供養」等に象徴されるように非生命を含めあらゆるものに「いのち」は宿ると捉えてきました。



④5月30日(水)

早瀬 昇

社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事

「悲しみに向き合う市民の関わり」

悲嘆にくれる状態に陥った時、心を閉じてしまうと、その苦しさを周囲が分かち合うことは困難です。市民がボランティアとして悲しみに寄り添い、支え合っていくための関わり方は、とても重要なのです。

⑤6月13日(水)

上野 創

朝日新聞東京本社販売局首都圏第1部次長、
「がんと向き合って」著者

「がんと向き合って ～患者となった1記者の経験から」

20代で進行がんを告知され、病と死と向き合うといった体験をし、その後、「いのち」に関心を持ちながら、いのちの授業や東日本大震災の被災地での取材や記事を書いた経験を通じて、生と死について考えてきました。

⑥6月20日(水)

永田 萌

イラストレーター、絵本作家

「希望を描く」

イラストレーター、絵本作家として、私の絵は私にしか描けないとの思いから、積極的に生きる勇気や元気を与えるファンタジーをこれからも描き続けていきたい、と日々願いながら、様々な思いを感じています。

⑧6月27日(水)

山形 謙二

神戸アドベンチスト病院院長

「死を生きる：ホスピス医療の現場から」

ホスピスにおける患者様たちの限られたいのちを真剣に生きている生き様から、私自身、多くの感動と生きる勇気を与えられてきました。人生において避けられない『病いと死』をどのような態度で迎えるのが重要なのです。

⑨7月4日(水)

西村 隆

ALS患者、「神様がくれた弱さとはほえみ」著者

「あまりにも弱いいのちを生きて ～ALS患者のまなざし」

進行性のALS(筋萎縮性側索硬化症)患者であり、絶対他者依存(人の助けなしでは生きられない)という生活ですが、「いのち」の拡がりや輝きを感じることもでき、私自身は日々幸福感に満ち溢れています。

⑩7月11日(水)

若林 一美

立教女学院短期大学学長、ちいさな風の会世話人

「悲しみを通して見えること」

わが子の死は、自らが生き続けることを困難にするほどの痛みとして意識されます。子どもを亡くした親の会「ちいさな風の会」の25年間の実践を通して、遺族の方たちの思いに触れ、いつも新しいことに気づかされています。

⑤ 6月6日(水)

林田 吉司

あしなが育英会東北事務所長

「あしなが育英会東北事務所の活動の報告」

3月11日の地震が発生したとき、17年前の神戸と同じ辛いことが東北でも起こるに違いないと直感しました。1ヵ月後の4月11日、東京事務所から3人が単身赴任し、仙台に東北事務所を設けました。最初の仕事は、とにかく遺児をキャッチすることでした。震災3日後には、一時金給付制度を発表し、メンバーが、被災各地の学校、避難所に応募を呼びかけて回りました。その結果、2,055人の遺児をキャッチすることができました。そして、遺児1人あたり平均200万円、総額41億1千万円の給付金を配ることができました。

遺児の把握ができた後、次の目標はレイ

ンボーハウスを建てることです。これは、神戸の地震の遺児、当時小3のかっちゃん書いた「黒い虹の絵」です。かっちゃんは瓦礫の中に長い時間閉じ込められ、やっと助け出された時に最初に知らされたのが、父と妹が亡くなったという事実でした。この絵は、その6ヶ月後の「つどい」で描かれたものです。この絵を見たとき、突然親を亡くした子供の心象風景、心の傷の現実を思い知らされました。これがきっかけとなり、神戸レインボーハウスを設立しましたが、東北にも、子供たちが辛い話ができて、自分の力で幸せを掴むためのレインボーハウスが必要です。レイ

ンボーハウスは、5つの候補地を決め、民間の方や遺児家庭の方の後押しをいただきながら、建設に向けて少しずつ動いています。10年、20年と長いスパンで子供たちと付き合うために、できるだけ早く建てたいという思いでいます。

東北では、多くの小学校高学年の子が、下校時に1、2年生が津波で流されていくのを見てしまったという話や、中学生が遺体運びを手伝わされたという話を聞きました。1年3ヶ月経ちますが、実は辛い体験の話というのはそんなに聞いていません。聞く機会が少ないこともありますが、まだ話し出しにくいところがあります。家も仕事も家族も全て流され、親も子どもも呆然と佇んでいるのが東北の現実です。東北には今、こういう人がたくさんいます。それを周りの人がよく承知しておかなければ、東北の復興はないと思います。他人を慮るという日本人のよい面をもう一度掘り起こさないと救われれないと思います。

生活が落ち着けば落ち着くほど、失ったものが日々自分に突きつけられることとなります。その意味で、大人も子供も、これからが本当に辛い時期になると思います。まだ1年3ヶ月しか経っていないのです。全容が明らかになるのはこれからです。どうぞ皆様のお力をお貸しください。



〔黒い虹の絵〕の紹介場面

◆あしなが育英会

病気や災害、自死などで親を亡くした子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体。子どもたちへの心のケア活動として、全国各地で「つどい」を実施し、当財団は高校奨学生のつどい(関西地区)、小中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対して助成を行っている。

住 所：(東北事務所) 〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺1-7-21 新寺KSビル3F
(神戸レインボーハウス) 〒658-0012 兵庫県神戸市東灘区本庄町1-7-3
(東京本部) 〒102-8639 東京都千代田区平河町1-6-8 平河町貝坂ビル
TEL：03-3221-0888

URL：http://www.ashinaga.org/



(写真提供：あしなが育英会)

身につけよう救命処置!!

JR 西日本と共催で、京阪神地区の駅を中心に救命処置等の体験をしていただく「救急フェア」を開催しています。

昨年度は、11 駅で実施し814 名の方に AED を使用した心肺蘇生法の手順を体験していただきました。このフェアを通じて改めて分かったことは、救命処置の方法等がまだまだ浸透していない、AED はたくさん設置されているのに操作方法を全く知らない方が多いということでした。

AED の操作は「怖くないんだ」「誰にでも出来るんだ」ということを知っていただき、目の前で誰かが倒れた時に勇気を持って行動することで、1 人でも多くの命が救えることにつながればと思っています。

AED (自動体外式除細動器) を知っていますか？

AED は、強い電流を流して心臓にショックを与えることで、心臓の細かくブルブルと震えて痙攣している動きを取り除いて (= 除細動)、心臓の状態を正常に戻すための機器です。

(AED の普及状況)

現在、全国に設置されている AED は約 30 万台を超え、駅・空港・宿泊施設等の公共施設への設置が急速に進んでいます。



[AED 操作方法]

音声ガイドに従って誰でも使用することができます。

- 1 電源を入れる
(ふたを開けると自動的に入るものもあります)
- 2 音声ガイドに従って操作する
- 3 パッドをイラストどおりに貼る

- 4 心電図の解析
(電気ショックが必要かどうかを AED が自動的に判断します)
- 5 ショックボタンを押す
(電気ショックが必要な場合は AED が知らせてくれます)



「救急フェア」開催中!!

今年度はこれまでに京都、三田、三ノ宮、和歌山の JR 各駅で開催し、多くの方に救命処置を体験していただきました。子ども連もイコちゃんや JR ミニ制服を着て写真撮影ができ、大喜びでした。今後のスケジュールは P8 をご覧ください。



公募助成先の活動紹介

平成24年度は48件の活動、研究に対し助成を行なっています。(うち22件は東日本大震災に関連する活動)

「～JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント～
フレンズ!かわにし2012」
フレンズ川西フェスティバル実行委員会 (090-3164-9556)
主に音楽イベントを通じて、JR福知山線列車事故の被害者への支援を行っています。



4月15日、川西市でプロギタリストやゴスペルチーム等による音楽ライブのほか、事故被害者をゲストに迎えてのトークセッションを行いました。買い物客など多くの方が足を止め、JR福知山線列車事故の風化防止に対するメッセージに耳を傾けていました。



4月21日、JR福知山線列車事故被害者の真の回復と事故の風化防止を願いつつ、事故のあった沿線の塚口駅から尼崎駅までの約3kmの道のりを約40名の参加者が歩きました。JR宝塚線沿線の書店を中心に「空色の菜」も配布され、事故を語り継ぐ活動となりました。



「4.25 あの日を忘れない・メモリアルウォーク2012」
「空色の会」～JR福知山線事故・負傷者と家族等の会 (090-4569-0425)
JR福知山線列車事故の負傷者と家族等の有志で安全で安心できる公共交通機関の実現に向けた思いを伝えていく活動を行っています。



NEWS

平成25年度公募助成(活動・研究)の募集を始めます。

【助成テーマ】

- ①事故、災害が起こった際の備えに関する活動・研究 又は
 - ②事故、災害が起こった後の心身のケア等に関する活動・研究
- 【特別枠】** 上記活動のうち、東日本大震災又は平成23年台風12号災害に関する被災地・被災者支援に関する活動

【助成対象】

- 活動助成:** 近畿2府4県に拠点があり、1年以上の継続的活動実績のある非営利の民間団体。(法人格の有無は問いません) 「特別枠」への応募の場合、活動実績は不問。
- 研究助成:** 近畿2府4県の大学、大学院、高等専門学校、公的研究機関及び医療機関等に所属する研究者

【助成期間】

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで(1年間)

【募集期間】

平成24年10月1日(月)～平成24年11月30日(金) 必着

【助成金】

総額で3,500万円(うち特別枠は500万円以上)を予定。



事業審査評価委員会委員
渥美 公秀(あつみ ともひで)
大阪大学大学院人間科学研究科教授
(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長
主に減災人間科学、ボランティアの集団力学、社会心理学を専門領域とし、ボランティアを含んだ災害救援システムの研究や災害ボランティアの社会的基盤に関する国際比較研究、東日本大震災の被災地におけるコミュニティとボランティアとの関係についての現場研究等を行っている。

JR西日本あんしん社会財団では、これまで3回にわたり、東日本大震災に特化した助成を行ってきました。毎回、遠く西日本の地から、被災地・被災者に想いを馳せ、現地の現状を踏まえ、被災者の生活や心身の健康面へのサポートを目指す素晴らしいプログラムが寄せられています。私どもも大いに学ばせて頂くと同時に、選考に際しましては、いつも大いに悩みます。被災された方々との信頼関係が(より)樹立されているか、プログラム実施者ではなく(より)被災地・被災者本位の活動が目指されているか、被災地・被災者が中心となった持続可能な展開が予想できるかなど、様々な側面から議論に議論を重ねて選考にあたらせて頂いております。これからは、息の長い支援・交流が必要になると思います。次回も、被災された皆様から活動があつて良かったと思ってくれるような地道なプログラムが数多く申請されることを願っております。

ホームページにて8月半ばに募集要項を公開、10月よりホームページにて申込みフォームを開設予定です。

「第3回 東日本大震災に関する活動」 助成先一覧

平成 24 年 4 月に募集を行なった「第3回東日本大震災に関する活動助成」（助成期間：平成 24 年4月1日～平成 25 年3月 31日）において
合計 12 件 (544万円) の助成が決まりました。

活動テーマ	団体名 [所在地]	主な活動予定地
宮城県山元町での屋内外の被災した箇所や屋敷林の撤去と、足湯など仮設住宅での寄り添い型活動	緑の下もぐら [兵庫県芦屋市]	宮城県 山元町 石巻市 気仙沼市
子どもワークショップ 「きらきらドキドキ☆うみたんけん！三陸の海と化石であそぼう！」	特定非営利活動法人大阪自然史センター [大阪府大阪市東住吉区]	宮城県 気仙沼市 南三陸町
仮設住宅及びみなし仮設住宅への訪問及びイベントの執行	大阪大学災害ボランティアサークルすずらん [大阪府箕面市]	岩手県 九戸郡野田村
3.11川永団地避難入居者支援	川永 東日本大震災避難入居者支援の会 [和歌山県和歌山市]	和歌山県 和歌山市
福島県内孤立コミュニティにおけるサロン活動とニーズ調査	特定非営利活動法人京都災害ボランティアネット [京都府京都市伏見区]	福島県 いわき市
被災地の中学生のための学習支援及び保養プログラム	一般財団法人京都 YWCA [京都府京都市上京区]	福島県 福島市 新地町 京都府 京都市
被災家庭子育て支援学習サポート事業	特定非営利活動法人全日本企業福祉協会 [大阪府吹田市]	大阪府 吹田市
つながろう！東日本大震災被災者つどいネットワーク	特定非営利活動法人宝塚 NPO センター [兵庫県宝塚市]	兵庫県 宝塚市
みちのく だんわ室／毎月1回 開催	東日本大震災被災者さんへの「暮らしサポート隊」 [兵庫県神戸市垂水区]	兵庫県
仮設住宅の被災者と支援者の支援	兵庫県介護支援専門員協会明石支部 [兵庫県明石市]	宮城県 桃生町
被災障害者の生活再建支援、事業化に向けた活動支援	特定非営利活動法人 ゆめ風基金 [大阪府大阪市東淀川区]	岩手県 宮城県 福島県
「私の好きなこの街」第4次復興支援コンサート	「私の好きなこの街」復興支援プロジェクト [兵庫県芦屋市]	岩手県 陸前高田市 大船渡市

NEWS

「東日本大震災に関する活動助成」報告会 ～私たちだからこそできる東日本大震災への支援～を開催します。

当財団では、東日本大震災発生直後の昨年4月に緊急的に募集した活動をはじめ、これまでに合計 32 件の活動に助成しています。東日本大震災から1年4ヶ月が経過し、メディアでも取り上げられる機会が徐々に減ってきています。当財団では、助成団体からの活動報告のほか、自らも被災地入りして支援活動を行う傍ら、災害救援システムに関する研究を行っている大阪大学大学院の渥美教授に講演していただき、「関西からの東日本大震災への支援」を考えてみたいと思い、防災の日の9月1日(土)に報告会を行うこととしました。



日時：平成 24 年 9 月 1 日 (土) 13:00～17:00 (予定)
場所：ホテルコムズ大阪 (地下鉄御堂筋線中津駅よりすぐ)
定員：約 200 名 要事前申込み・参加費無料

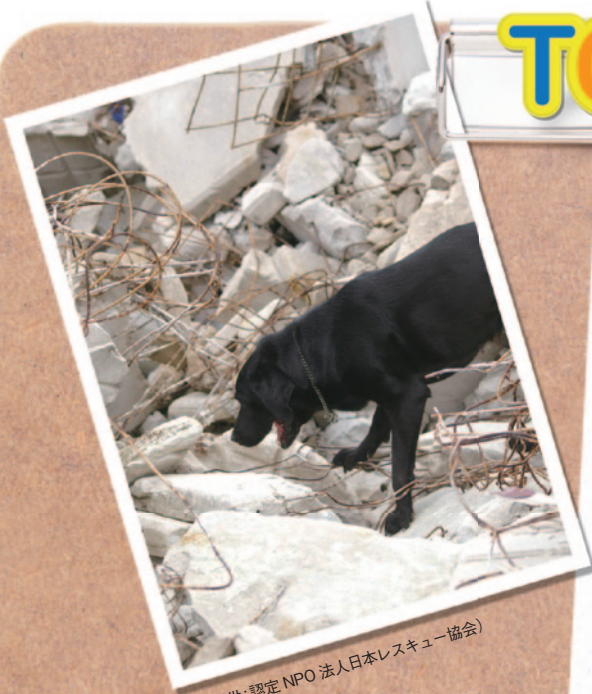
内容：◎ 基調講演 大阪大学大学院人間科学研究科教授
(特) 日本災害救援ボランティアネットワーク理事長
あつみ ともしで
渥美 公秀 氏

◎活動助成団体からの報告

平成 25 年度公募助成 (活動・研究) 説明会も行います。

公募助成(活動助成)先の活動予定

現在助成を行っている団体の今後の活動予定をご紹介します。詳細につきましては、各団体へ直接お問い合わせください。



(写真提供:認定 NPO 法人日本レスキュー協会)

認定 NPO 法人 日本レスキュー協会

見学会

(TEL:072-770-4900 又は E-mail:info@japan-rescue.com)

日程 平成 24 年 8 月 12 日(日)、9 月 9 日(日)、10 月 14 日(日)
各日とも 9 時～11 時半 ※毎月第 2 日曜日に定期開催

場所 認定 NPO 法人日本レスキュー協会
(兵庫県伊丹市下河原 2-2-13 ※JR 北伊丹駅徒歩 10 分)

内容 緊急時に十分な活動ができるよう災害救助犬の認知度向上を図るため、模擬瓦礫等を利用した災害救助犬の訓練の様態を公開します。当財団の助成金で育成されている災害救助犬の成長や訓練の過程もご紹介します。
(定員 40 名、電話又はメールにて要事前申込み、参加費無料)

近畿大学医学部 奈良病院 小児外科

子供を守ろう！ 家の中には危険が いっぱい

(TEL:06-6645-3841 又は E-mail:kids@med.osaka-cu.ac.jp
《日本小児外科学会近畿地方会 市民公開講座事務局》)

日程 平成 24 年 8 月 26 日(日) 14 時～16 時

場所 大阪市立阿倍野市民学習センター講堂(阿倍野ベルタ内)
(大阪市阿倍野区旭町 1-4-3
※大阪市営地下鉄阿倍野駅徒歩 1 分)

内容 子どもの死亡原因の 1 位である「不慮の事故」から如何にして子どもを守るか。また事故に遭遇した場合、大人たちは何をすべきか。万一のときに、躊躇することなく行動するための市民公開講座を開催します。(定員 20 名、電話又はメールにて要事前申込み、参加費無料)

NPO 法人 オーシャンゲート ジャパン

子どものための 水面安全レスキュー サポーター養成講習会

(FAX:06-6212-6277 又は E-mail:oceangate@fancy.ocn.ne.jp)

日程 平成 24 年 8 月 13 日(月)、17 日(金)、9 月 8 日(土)、
10 月 20 日(土) 各日とも 10 時～17 時半

場所 白崎海洋公園
(和歌山県日高郡由良町大引 960-1 ※JR 紀伊由良駅
タクシー乗車 15 分。または、最寄駅より送迎相談可)

内容 乳児・小児、大人のダミー人形を用いて最新の応急手当や人工呼吸法を学べるだけでなく、プールや海洋でのレスキュー技術、サポート方法が習得できる講習会を開催します。
(定員 12 名(最小催行人数 3 名)、FAX 又はメールにて要事前申込み、参加費 4,200 円)

NPO 法人 震災から 命を守る会

防災まちづくり 「災害に備えて - 地域と企業の 取組み -」防災活動発表会 & 「防災『地産地消』 - よいもの・ わかりやすいもの -」展

(TEL:073-472-5619 又は E-mail:saigai_inochimamoru@live.jp)

日程 平成 24 年 9 月 1 日(土) 10 時～17 時
9 月 2 日(日) 10 時～16 時

場所 和歌山ビッグ愛 1 階展示ホール及び 8 階特設会議室
(和歌山県和歌山市手平 2-1-2 ※JR 和歌山駅徒歩 15 分)

内容 自治会や企業、福祉施設等で災害から“命を守る”対策に取り組んでいる防災担当者による発表会を開催します。また、防災用品や非常食等防災に役立つ情報を展示します。
(入場無料。詳しくはブログ(<http://mamorouwakayama.ikora.tv/>)をご覧ください)



(写真提供: NPO 法人オーシャンゲートジャパン)



主催セミナー等のお知らせ



平成24年度安全セミナー 「『ヒューマンファクター』 から考える安全」



昨今、安全対策の分野では、人的要因に焦点をあてたアプローチである「ヒューマンファクター」が注目を集めています。今年度の安全セミナーでは「ヒューマンファクター」にテーマを絞り、人間の特性を心理学や人間工学等の視点から深く掘り下げ考えていきます。

日 時：平成24年8月27日(月) 13:30～16:30
会 場：あましんアルカイックホール・オクト（尼崎市昭和通2-1-16 ※阪神尼崎駅徒歩5分）
定 員：500名
申込方法：ホームページ又はハガキにて要事前申込み



「人が守る安全を考える —安全マネジメントの視点から」

早稲田大学理工学術院教授
小松原 明哲 氏
専門は人間生活工学
(主にヒューマンファクターにかかわるリスクマネジメントや
製品・サービスの人間中心設計に関する研究)



「組織の中で人を活かし、人をつなぐ —パンドラの箱の物語」

立命館大学スポーツ健康科学部准教授
山浦 一保 氏
専門は産業・組織心理学
(主にリーダーシップや人間関係構築に関する心理学的研究)

第2回連続講座 「『いのち』を考える」



平成24年5月から7月にかけて開講した第1回連続講座に引き続き、多様な観点から「いのち」に焦点を当てた連続講座を開講いたします。

応急手当普及員の資格を持つJR西日本社員が先生役となり、一緒に心肺蘇生法やAEDの使用方法などを体験できる救急フェアを開催中。



救急フェア 「身につけよう 救命処置」



開 講：平成24年10月3日(水)
募 集 期 間：平成24年8月中旬～9月上旬
定 員：350名
申 込 方 法：ホームページ又はハガキにて要事前申込み

詳しくは、8月10日頃にホームページやJR各駅ポスター等でお知らせいたします。

日 程	開 催 場 所
9月8日(土)	JR宝塚駅
9月9日(日)	JR天王寺駅
9月17日(月・祝)	JR奈良駅
10月6日(土)	JR高槻駅

日 程	開 催 場 所
10月20日(土)	JR伊丹駅
10月27日(土)	JR大阪駅
(調整中)	JR尼崎駅

「東日本大震災に関する活動助成」報告会 ～私たちだからこそできる東日本大震災への支援～



日 時：平成24年9月1日(土) 13:00(予定)
会 場：ホテルコムズ大阪
(大阪市北区豊崎3-18-8
※地下鉄御堂筋線中津駅よりすぐ)
定 員：200名(予定)

- ◎基調講演
大阪大学大学院人間科学研究科教授、
(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長
渥美 公秀 氏
- ◎活動助成団体からの報告
- ◎平成25年度公募助成説明会



平成25年度公募助成(活動・研究)募集

募集期間：平成24年10月1日(月)～平成24年11月30日(金)必着

心身のケア、防災、救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動等を応援します。

★詳しくはホームページをご覧ください。

各種イベントのお申込みはホームページからも可能です。
(平成25年度公募助成の申請は10月より受付開始)ぜひ、ご利用ください。

JR西日本財団 検 索



編集後記



お気づきでしょうか？
なんと財団のロゴマークが出来ました!(表紙に掲載)
「安全で安心できる社会」の実現において私たちが一番大切だと考えている「いのち」を支える「心」という文字がモチーフです。今後、様々な広報物に載せていけることが今から楽しみです。このロゴマークを見れば「JR西日本あしん社会財団だ」と言っていたかのように、これからは様々な活動に取り組んでいきます。(編集者:小山)